

## 第69回 埼玉県美術展覧会審査評

### 【第4部 工芸】

審査主任 はなわ 花輪 しげみ 滋實

69回展の工芸の一般の出品点数は188点、会員は107点で審査対象作品数は295点となりました。入選数は一般80点、会員83点で163点となりました。一般の入選率は43%、会員は78%でした。一般の方は大変厳しい結果となりましたが、初めて出品される方も多く、工芸という分野そのものがまだ良く理解されていない部分があったのかなと思うふしがありました。近年陶芸の組皿が多くなってきています。数の制限はありませんが、5枚6枚の範囲で制作し、出品することが望ましいかなと思います。

今年は人形、七宝の力作が見当たりませんでした。壁面作品の中で絵画的に主力を置いている作品が多く見受けられました。工芸は素材を生かしたもので絵画的に主眼を置くのはどうかなと感じました。全体的な傾向としてそれぞれが個性を発揮しており変化に富んだ作品がありました。自分の個性を大切に、作りたいものを作るという方向を大切に、これからも進んで下さい。

#### ・埼玉県知事賞

けやきふきうるしじゅうにかくもりき 「櫨拭漆 十二角盛器」 まるおか 丸岡 しげのぶ 重信

48cm 径の櫨材のくりものの作品です。中心から十二等分して二段の角度を変えて内面に変化をさせています。微妙な角度での削り出しは技術のいるところで、作者の技量が伺えます。

目のつんだ良材に拭漆を施し、櫨材の良さを引き出しています。裏面も表面と同じ彫がしてあり、程良い重さで持ち手も良く盛器としての使い勝手がすばらしい作品に仕上がっています。全体のバランスも良い秀作です。

・埼玉県議会議長賞

いろえこくもんさらそろい  
「色絵刻紋皿揃い」

あらい まさひと  
荒井 将仁

ポップで鮮やかな色絵が目に入ってきます。

陶土の板を文様が彫ってある皿型に押し当てる事により刻文が浮かび上がり、その上に色釉を施すことにより色彩豊かに仕上げられています。

5枚組の揃いの皿ですが、それぞれの刻文の鳥や人の構図が違い、作品の中に物語があるように感じます。

観る側にも作品から楽しさが伝わる秀作です。

・埼玉県教育委員会教育長賞

けやきくじゃくもくふ うるしこもの い  
「樺孔雀杓拭き漆小物入れ」

おがわ たつお  
小川 辰夫

総樺の七段の小引き出しが付いている小物入れです。丸い四本の足で孔雀杓という銘木で天板、側板の四方を固定、どっしりとした作品になっています。引き出しの面はわずかに曲面になっており、黒柿の取手の曲線と相まってしっくりとあっていて、固さがなくなりやわらかさを感じます。仕上げは拭漆という樺の木目を最大限に生かす技法で、丹念に塗りをしており美しく仕上がっていて、細かい所も手を抜かない素敵な作品です。

・埼玉県美術家協会賞

かいら ぎりゅうせんもん か き  
「梅華皮流線紋花器」

さかえ かずお  
榮 一男

シャープなエッジで造形的に加飾された流線紋は、落ち着いた色合いの梅華皮釉が掛けられることによってゆったりとした雰囲気と、内からなる力強さを感じます。

側面のレリーフと口元のフォルムは、まるで水中から水面に伝わる波の一連の動きのように、それぞれが協調しあう構成になっています。

作者の造形力の高さと、表現へのこだわりを感じる秀作です。

・埼玉県美術家協会賞

はんげしょう ひき え  
「半夏生」 日岐 かつ江

夏用の薄手の生地半夏生が、素描き風に表現されています。生地の織り方が表情に富み、シャリ感のある地風がモチーフの季節感とマッチして心地良い相乗効果をあげています。半夏生を彩る挿し色のグリーンからブルーに変化する色の階調が美しく、実際よりも豊かな色彩の存在を見る側に与える効果があります。また淡いグレイの斑模様がおおらかに地色に施され、涼やかな風の通り道を感じさせます。通常はムラが無く均一に染色することが殆どである地色について、作者は個性的な表現方法で、モチーフを良く生かしています。

一見ラフに見えながら、神経の行き届いた細かさを感じます。

作者の豊かな感性の今後に期待致します。

・埼玉県美術家協会賞

かしんれいげつ むらた しほ  
「嘉辰令月」 村田 之保

和紙素材の中で最も繊維が長く男性的と言われている楮（こうぞ）を使った作品であり、表面の質感を生かす為に、故意に材料の中に太い繊維を入れて漉き上げています。

構成は大小の円と正方形をタイルのように絶妙なバランスで組み上げており、色彩も和紙の生漉色と茶色のバリエーション2色におさえて、作者の思いを表現しています。

枠の木目とアクセントに入れたブラウンの木材とのマッチングも良く考えられている力作です。

令和元年にふさわしいタイトルになっています。

・NHKさいたま放送局賞

「いたずら」 くろさわ 黒澤 かな 香奈

一枚の板を何回もたたき造形を行なう鍛金技法、その中でも難しい変形絞りで作られた作品です。いたずらそうな顔とボディを上手に一枚の板から打ち出し、毛並はたがねを入れ、細部にまでこだわっています。たがねを入れた事で動物の表情が豊かな作品になりました。

若い作者の技術力の高さに感心いたしました。動物のいぶし仕上、台座の緑青仕上、黄銅のリボンと異なる素材や色の組合せもお互いを強調し成功した作品です。若い人ならではの感性があふれ、見ていて楽しい作品に仕上がりました。

・埼玉県美術家協会会長賞

くさきぞめ 草木染・ろーとんおりきもの 道屯織着物「はる春のかおり」 たどころ 田所 ともえ 智江

絹糸から着物に仕上がるまでの、糸染め、かすり作り、縞立て、機織り、等々の技法が丁寧に確実に行われた結果の作品です。

道屯織りで糸がキラリと輝く部分、薄紫色の横がすり、格子柄などが特徴的です。そして肩と裾からのグラデーションで奥行きまで感じられます。

すべてがバランス良く仕上がった秀作です。

・高田誠記念賞

「うれ嬉しいたよ便り」 あらふね 荒舩 きぬこ 絹子

木彫布木目込みという技法による人形です。桐の木を頭、手、足、胴と別々に彫り、顔、手は胡粉を塗り仕上げます。

胴体は、布を木目込み、別々に仕上げた各部を組合せて完成させます。

人形の造形に優れていて、着物や帯は夏物の生地を使い、木目込みもとても丁寧に仕上げられています。

初夏に嬉しい便りが届く情景が浮かぶ、素晴らしい作品です。